

異業種交流

航空宇宙プロジェクト

グローバル展開見据え

熱処理世界最大手の戦略学ぶ

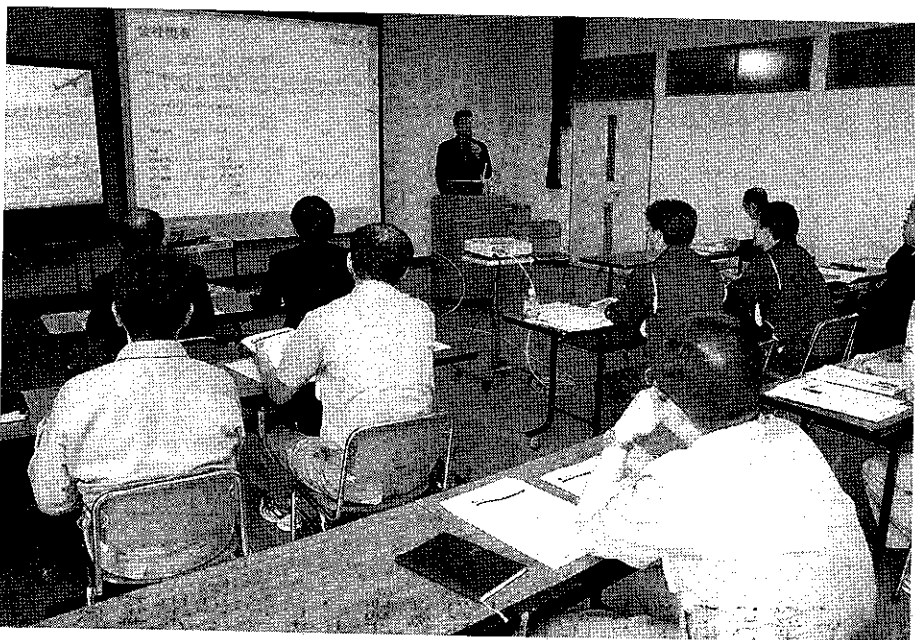
三遠南信クラスター推進会議主催の航空宇宙産業プロジェクト・特別講演会はこのほど、飯田市上郷別府の地場産業センターで開いた。航空宇宙産業分野では、特殊加工とされる熱処理や表面処理は重要な管理工程と位置付けられ、国内では大手重工を除いてこれに対応できるメーカーは限られてくる。講演では、自動車や航空宇宙産業分野の熱処理受託加工サービス世界最大手の英ボディーコート日本法人「ボディーコート・ジャパン」(名古屋市中区、ジュリアン・ベイシヨア社長を迎え、同社の世界戦略や航空機産業の現状、飯田地域製造業の可能性を語った。

し、特にアジアにおいて、業に対するサポートを新たな経済圏が台頭。なかでも中国や日本には進出したか

「我が社が持つ技術では、合成力を犠牲にせず表面高度を上げることができ」などと強みをアピールし、「世界中でボディーコーティングの日系得意先企

同社は1973年に英国で創業し、現在世界28カ国に191の工場を持つ。全世界での08年度売上高は810億円、純利益は105億円。従業員は約7000人で、工業炉は8000台以上を所有する。名古屋を拠点とする同社は国内ユーザーに専門的サービスの提供を目的に2008年に設立した。米国力フィオルニア

州サンフランシスコ市生まれのベイシヨア社長は、各門ペンシルベニア大学ウォートンスクールでビジネスを学ぶとともに、在学中に日本語も学び、留学生として京都日本研究センター・KJCS(スタンフォード大学の日本校)で過ごすなど、キャリアの大半を日本で積み上げてきた。



航空宇宙産業プロジェクトの特別講演会

トナーとしての地位獲得を目指していく」と強調した。

「大きな設備投資で購入する装置の稼働は日勤だけではもったいない。夜勤、週末働ける人材を確保する必要がある」と訴えた。

ベイシヨア社長は航空宇宙工業界について「自動車産業などよりも環境に配慮した技術が遅れている」と指摘し、「メキシコの代替品や塗料を開発すれば、外資系などに採用されるかもしれない。日本の企業にとってもチャンスなのでは」と提案。

さらに「飛行機は1社では作れない。1次から5次程度まで、必ず城下町がある。4次、5次加工をするみなさんの存在はとても大事」とし、「メーカーでなくても自社の独自加工に名前を付けてPRする手法も良いのでは」とアドバイスした。

航空宇宙産業の将来性と技術の先進性に着目し、飯田下伊那地方に「航空宇宙産業クラスター」の形成を目指して活動展開する「飯田航空宇宙プロジェクト」は06年に発足。現在28社が登録しており、得意とする難削材加工などを中心に、国内外の大手航空機メーカーからの共同受注活動を展開している。先月、ものづくりONAGANO応援懇話会(座長・山浦愛幸貞経営者協会会長)が主催する「ものづくり大賞NAGANO2010」において特別賞を受賞した。